

『脳卒中治療ガイドライン 2015』の正誤のお知らせ

『脳卒中治療ガイドライン 2015』第1版 第1刷に誤りがありましたので、お詫びして、訂正いたします。

<該当箇所>

69 ページ

II 脳梗塞・TIA

1 脳梗塞急性期

1-8 脳動脈：血管内再開通療法（局所線溶療法、その他）

推奨

【誤】

1. 神経脱落症候を有する中大脳動脈塞栓性閉塞においては、来院時の症候が中等症以下で、CT上梗塞巣を認めないか軽微な梗塞にとどまり、発症から6時間以内に治療開始が可能な症例に対しては、経動脈的な選択的局所血栓溶解療法が勧められる（グレードB）。ただし、発症後3時間以内に薬剤投与が可能な患者に対しては、遺伝子組み換え組織プラスミノゲン・アクティベータ（rt-PA）静注療法が第一選択となっていることに留意する。

【正】

1. 神経脱落症候を有する中大脳動脈塞栓性閉塞においては、来院時の症候が中等症以下で、CT上梗塞巣を認めないか軽微な梗塞にとどまり、発症から6時間以内に治療開始が可能な症例に対しては、経動脈的な選択的局所血栓溶解療法が勧められる（グレードB）。ただし、発症後4.5時間以内に薬剤投与が可能な患者に対しては、遺伝子組み換え組織プラスミノゲン・アクティベータ（rt-PA）静注療法が第一選択となっていることに留意する。

2015年9月14日

一般社団法人 日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会
委員長 小川 彰
株式会社 協和企画